

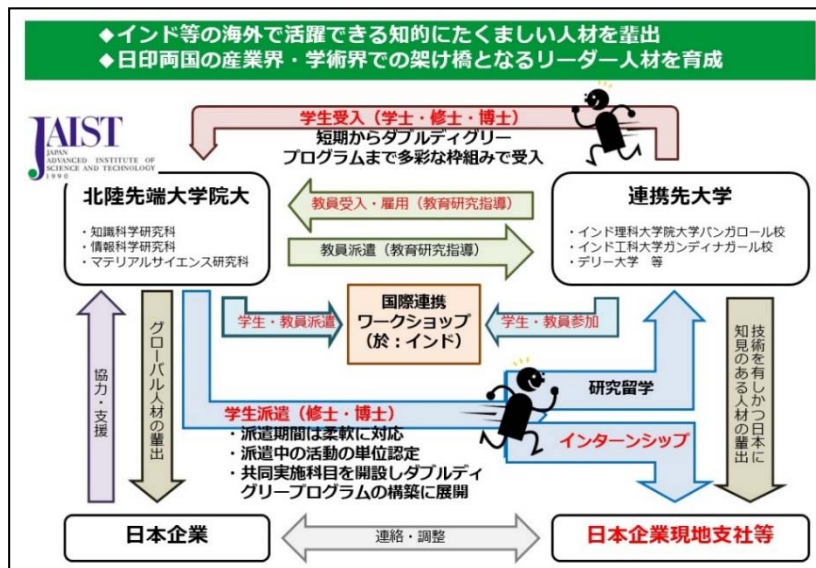
1. 構想の概要

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(インド))

インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学者・技術者の育成

【構想の概要】

短期から長期までの多彩な枠組みで学生の相互交流を行う協働教育プログラムを構築し、インド進出日本企業等と連携したインターンシップを組み合わせ、「知的たくましさ」を備えた人材を育成する。このような人材の育成に向け、まずは交流相手校と協働して短期間の国際連携ワークショップ・セミナー等を開催し、そこに日本人学生の参加を促すことでインド留学に向けた足掛かりとし、その後の中・長期派遣といった段階的な展開により、学生のモチベーション向上と現地での課題を意識した効果的な学修を目指す。また、相互に教員や学生の受入を行う協働教育研究指導による教育連携では、分野横断的な履修推奨科目を設けるほか、知識科学の手法を活用したグループワークを中心とする授業科目を新設し、履修を必須とする。双方向型のダブルディグリープログラムにおいては協定校と共同で授業科目を担当する「共同実施科目」を開設する。さらに、各プログラムの派遣学生には企業でのインターンシップの機会を提供し、現地ニーズを的確に把握し、問題の発見と解決を可能とする能力を養い、グローバルな人材を輩出する。



【交流プログラムの概要】

①国際的なワークショップ・セミナー交流: 英語での発表やディスカッションを通して参加学生の英語による自己主張能力の向上を図るとともに、中・長期派遣に向けたモチベーションを高める。②協働教育研究指導: 相手国に1か月～半年程度滞在し相手校指導教員から協働研究指導を受ける。日本人学生には必修科目の履修の他、インド進出日本企業等でのインターンシップを奨励する。③ダブルディグリープログラム: ①, ②を継続して実施しながら双方向型のダブルディグリープログラムに展開する。相手校との共同実施科目を開設するとともに、産業界との連携を強化し、プログラム参加学生に企業インターンシップの機会を提供する。

【本構想で養成する人材像】

交流相手校との協働教育及び現地進出日本企業等と連携したインターンシップ等の実施により、産業構造や社会の変革を見据えた知的たくましさや備えた人材、日印両国の産業界・学術界での架け橋となるリーダーの育成を目指す。

【本構想の特徴】

短期派遣から中・長期派遣への段階的なプログラム展開により、学生のモチベーション向上と現地での課題を意識した効果的な学修を可能とする。フィールド指向の教育プログラムにインド進出日本企業等でのインターンシップを組み合わせ、現地ニーズを的確に把握し問題発見・解決のできるグローバルな人材を輩出する。

【交流予定人数】

| | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 学生の派遣 | 8 | 18 | 22 | 22 | 24 |
| 学生の受入 | 18 | 20 | 24 | 24 | 26 |

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)

【北陸先端科学技術大学院大学】

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(インド))

インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学者・技術者の育成

■ 交流プログラムの実施状況



〈バンガロールでの企業視察〉

○日印双方で国際ワークショップやセミナー等を開催し、学生の相互交流を行った。特にインド(バンガロール)で開催したワークショップでは、日本人学生による現地進出企業の視察を併せて実施し、インド進出についての課題等について直接現地企業担当者から話を聞く機会を設けた。

○インド工科大学ガンディナガール校の学部学生を本学の特別学修生として受け入れた。特別学修生は受入教員の研究室に一定期間滞在し、研究分野のマッチングを行うとともに、日印間の慣習の違い等について理解を深めた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・ 2015年2月にインド理科大学院大学バンガロール校においてワークショップを開催、日本人学生11名が参加し、両校の学生によるポスターセッションを行った。ワークショップ開催に併せて現地進出企業4社の視察を実施した。

○ 外国人留学生の受入

- ・ デリー大学とのダブルディグリープログラムにより、博士前期課程学生6名を受け入れた。
- ・ 本学において2015年1月に国際セミナー、3月に国際シンポジウムを開催、相手校3校から計8名の学生が参加し、本学学生との意見交換やポスターセッションを行った。
- ・ インド工科大学ガンディナガール校の学部学生6名を特別学修生として一定期間受け入れた。

| | H26 | |
|-------|-----|----|
| | 計画 | 実績 |
| 学生の派遣 | 8 | 11 |
| 学生の受入 | 18 | 20 |

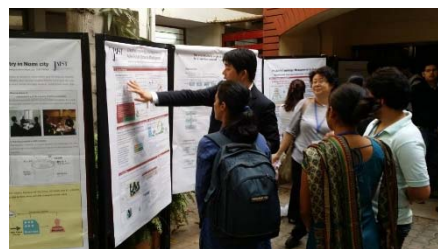
■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○アカデミックカレンダーの違いに配慮した交流プログラムの計画

本学の教職員を相手校に派遣し、中・長期の学生交流計画策定に向けて日印双方のカリキュラムや学事日程、学修環境の確認を行った。インド工科大学ガンディナガール校との間では、先方の教員が本学を訪問調査し、協働教育プログラム構築に向けた課題について協議を行った。

○分野横断的な履修推奨科目の設置

グローバル環境下で問題発見・解決ができる能力を培い、インドへの中・長期派遣に向けての必要な基礎知識修得のための授業科目「科学技術世界展開」を設置し、平成27年度から開講することを決定した。これにより、日印で開催する国際セミナー等への参加を履修科目の一部とし、学修成果を単位認定につなげる仕組みを整備した。



〈インドでのポスターセッションの様子〉

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○留学支援センターの設置

平成27年度からの留学支援センターの設置及び留学支援職員の配置を決定し、外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための総合サポート体制の基盤を整備した。

○インド渡航に関する講習会の開催

全学生を対象にインド渡航に関する講習会を開催し、インドにおける生活・安全衛生面の注意点、文化・慣習の違い等について講習を実施した。講習会の内容は講義アーカイブ化し、当日受講できなかった学生もwebで視聴可能とした。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

○パンフレット、ウェブサイトによる情報公開

パンフレットとウェブサイトを作成し、事業内容の学内外への情報発信に着手した。

○外部有識者を含む評価委員会の設立

構想の推進にあたり産業界と連携し現地ニーズを的確に把握するため、産業界を含めた外部有識者を中心とする評価委員会を設置した。

■ 特記すべき事項等

インドでのワークショップや本学での国際セミナーの開催等を通して、計画よりも多くの日本人学生の派遣及び外国人学生の受入を実現し、次年度以降の本格的な交流継続の足掛かりとなった。また、相手校との教育連携に関する協議により、本学と相手校との学際的な教育方針の合致が図られ、平成27年度からの中期的な学生の相互派遣に向けた双方の連携体制が強化された。

3. 取組内容の進捗状況(平成27年度)

【北陸先端科学技術大学院大学】

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(インド))

インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学家・技術者の育成

■ 交流プログラムの実施状況



〈インドでのワークショップ〉

○日印双方で開催する国際ワークショップ・セミナーへの参加を目的とした短期の相互学生交流、特別学修生制度による相手校の学部学生の受入を継続するとともに、協働教育研究指導による1～3か月程度の相互学生交流を開始した。

○日本人学生の国際ワークショップ等への参加について履修科目の一部とすることで学修成果の単位認定を行った。また、協働教育研究指導プログラムによる日本人派遣学生に対し、現地でのインターンシップの機会を提供した。

○留学支援センターにインド国籍のプログラムコーディネータを配置し、インド側との円滑な連絡調整や交流学生へのサポート体制を充実させた。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○日本人学生の派遣

・インドの相手校3校で国際ワークショップ等を各1件計3件開催し、日本人学生計16名を派遣した(派遣期間:4～12日)。派遣学生は現地学生とのグループ演習やポスター発表、現地進出企業の視察等を行った。

・協働教育研究指導プログラムにより、インドの相手校に日本人学生2名を派遣した(派遣期間:3か月)。派遣学生は相手校の研究室の一員として学修を行った他、現地進出日本企業で2週間のインターンシップを経験した。

○外国人留学生の受入

・相手校との連携により、本学で国際ワークショップを2件開催し、相手校の学生計8名を受け入れた(受入期間:4～11日)。受入学生は本学学生とのディスカッションやポスター発表を行った。

・協働教育研究指導プログラムにより相手校の大学院生7名、特別学修生制度により学部学生7名の計14名を受け入れた(受入期間:1～3か月)。受入学生は本学の研究室の一員として学修や研究発表等を行った。

| | H27 | |
|-------|-----|----|
| | 計画 | 実績 |
| 学生の派遣 | 18 | 18 |
| 学生の受入 | 20 | 22 |



〈バンガロールでの企業視察〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○インドでの学修成果等を単位として認定

・国際ワークショップ等への参加を授業科目「科学技術世界展開」(平成27年度より開講)の履修の一部とし、日印で開催した国際ワークショップ等参加による成果を単位として認定した。

・IITGNとの間で、学生の相互交流を行う双方向型ダブルディグリープログラム構築に向け、学生募集の構想、シラバスの内容や授業時間・単位数の比較、双方での学修時期や期間といった具体的なプログラム内容についての検討に着手した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○留学支援センターの運用開始

4月に留学支援センターを設置し、プログラムコーディネータ及び留学支援職員を配置した。センターでは、相手校及びインド進出日本企業との連絡調整やプログラム参加学生の受入・派遣支援及び指導助言等のサポートを行った。

○インド渡航に向けた事前研修の実施や安全講習会等の開催

インド派遣希望学生等を対象に英語でのディスカッション能力向上に向けた事前研修や、外部講師による安全講習会を開催した。また、全学生・教職員を対象にインド留学経験者による帰国報告会を開催し、他の学生に対する海外留学の動機付け及び渡航前安全研修の一環とした。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

○パンフレット、ウェブサイトによる情報公開

事業ウェブサイトプログラムの最新の情報や活動実績を日本語及び英語で掲載し、国内外への事業成果の普及に努めた。また、事業パンフレットを入学希望者や企業に配布し、本事業内容に関する情報提供を行った。

■ 特記すべき事項等

・大学の国際化推進に係る方針等に基づき、その実現に向けた関係施策の企画立案及び実施等に係る事項を審議・決定し、実施するため、平成28年4月に国際連携本部を設置した。国際連携本部年度計画として本事業の取組内容を盛り込み、着実な実施体制を整備した。

4. 取組内容の進捗状況(平成28年度)

【北陸先端科学技術大学院大学】

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(インド))

インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学者・技術者の育成

■ 交流プログラムの実施状況



〈インドでのワークショップ〉

○日印双方で開催する国際ワークショップ・セミナーへの参加を目的とした短期の相互学生交流、特別学修生制度による相手校の学部学生の受入及び協働教育研究指導による1～3か月程度の相互学生交流を実施した。

○日本人学生の国際ワークショップ等への参加について履修科目の一部とすることで学修成果の単位認定を行った。また、協働教育研究指導プログラムによる日本人派遣学生に対し、現地でのインターンシップの機会を提供した。

○留学支援センターに配置したインド国籍のプログラムコーディネータを中心に、新たなインターンシップ先企業を開拓する等、プログラムの充実を図った。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

・インドの相手校2校で国際セミナーを各1件計2件開催し、日本人学生計19名を派遣した(派遣期間:4～15日)。派遣学生は現地学生とのグループ演習やポスター発表、現地進出企業の視察等を行った。

・協働教育研究指導プログラムにより、インドの相手校に日本人学生3名を派遣した(派遣期間:2～3か月)。派遣学生は相手校の研究室の一員として学修を行った他、現地進出日本企業で2週間のインターンシップを経験した。

○ 外国人留学生の受入

・相手校との連携により、本学で国際ワークショップ・シンポジウムを2件開催し、相手校の学生計9名を受け入れた(受入期間:2～9日)。受入学生は本学学生とのディスカッションやポスター発表を行った。

・協働教育研究指導プログラムにより相手校の大学院生10名、特別学修生制度により学部学生8名の計18名を受け入れた(受入期間:1～3か月)。受入学生は本学の研究室の一員として学修や研究発表等を行った。

| | H28 | |
|-------|-----|----|
| | 計画 | 実績 |
| 学生の派遣 | 22 | 22 |
| 学生の受入 | 24 | 27 |



〈バンガロールでの企業視察〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○インドでの学修成果を単位として認定

・国際ワークショップ等への参加を授業科目「科学技術世界展開」(平成27年度より開講)の履修の一部とし、日印で開催した国際セミナー等参加による成果を単位として認定した。

・インドからの協働教育研究指導による受入学生に対しては、平成28年度から、所属大学での学修による知見を活かした本学での演習に対し、本学が単位付与する授業科目を開講し、修了者への単位認定を行った。

・インド工科大学ガンディナガール校(IITGN)との間で、学生の相互交流を伴う双方向型ダブルディグリー構築に向け、学生募集の構想、シラバスの内容や授業時間・単位数の比較、双方での学修時期や期間といった具体的なプログラム内容を双方で確認し、平成30年度からの学生交流開始を目指すことで合意した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○留学支援センターの運用

留学支援センターにおいて、相手校及びインド進出日本企業との連絡調整やプログラム参加学生の受入・派遣支援及び指導助言等のサポートを行った。

○インド渡航に向けた事前研修の実施や安全講習会等の開催

インド派遣希望学生等を対象に英語でのディスカッション能力向上に向けた事前研修や、外部講師による安全講習会を開催した。また、全学生・教職員を対象にインド留学経験者による帰国報告会を開催し、他の学生に対する海外留学の動機付け及び渡航前安全研修の一環とした。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

○パンフレット、ウェブサイトによる情報公開

事業ウェブサイトにてプログラムの最新の情報や活動実績を日本語及び英語で掲載し、国内外への事業成果の普及に努めた。留学関連情報を集約し一元的に発信するため、留学支援センターのホームページを作成した。

■ 特記すべき事項等

・事業の着実な実施に向け、大学の国際化推進に係る施策の立案等を行う国際連携本部における年度計画に、本事業の取組内容を盛り込み、進捗管理を行うとともに、学生への留学情報の一元的な発信等、事業内容の改善を行った。

5. 取組内容の進捗状況(平成29年度)

【北陸先端科学技術大学院大学】

【構想の名称】(選定年度26年度・主たる交流先(インド))

インド等の海外で活躍できる知的にたくましい先導的科学者・技術者の育成

■ 交流プログラムの実施状況



〈インドでのセミナー〉

○日印双方で開催する国際セミナーへの参加を目的とした短期の相互学生交流、特別学修生制度による相手校の学部学生の受入及び協働教育研究指導による2~3か月程度の相互学生交流を実施した。

○日本人学生の国際セミナー等への参加について履修科目の一部とすることで学修成果の単位認定を行った。また、協働教育研究指導プログラムによる日本人派遣学生に対し、現地でのインターンシップの機会を提供した。

○インド工科大学ガンディナガール校(IITGN)との間で、博士前期課程における学生の相互交流を伴う双方向型ダブルディグリープログラムの実施に係る覚書を締結した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

・インドの相手校2校で国際セミナーを各1件計2件開催し、日本人学生計15名を派遣した(派遣期間:4~14日)。派遣学生は現地学生とのグループ演習やポスター発表、現地進出企業の視察等を行った。

・協働教育研究指導プログラムにより、インドの相手校に日本人学生5名を派遣した(派遣期間:2~3か月)。派遣学生は相手校の研究室の一員として学修を行った他、現地進出日本企業で2週間のインターンシップを経験した。

○ 外国人学生の受入

・相手校との連携により、本学で国際シンポジウムを1件開催し、相手校の学生計6名を受け入れた(受入期間:2日)。受入学生は本学学生とのディスカッションやポスター発表を行った。

・協働教育研究指導プログラムにより相手校の大学院生12名、特別学修生制度により学部学生6名の計18名を受け入れた(受入期間:2~3か月)。受入学生は本学の研究室の一員として学修や研究発表等を行った。

| | H29 | |
|-------|-----|----|
| | 計画 | 実績 |
| 学生の派遣 | 22 | 20 |
| 学生の受入 | 24 | 24 |



〈バンガロールでの企業視察〉

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○インドでの学修成果等を単位として認定、ダブルディグリープログラムの学生募集開始

・国際セミナー等への参加を授業科目「科学技術世界展開」(平成27年度より開講)の履修の一部とし、日印で開催した国際セミナー等参加による成果を単位として認定した。

・インドからの協働教育研究指導による受入学生の所属大学での学修による知見を活かした本学での演習を、授業科目「科学技術学外演習」(平成28年度より開講)の履修とし、演習修了者への単位認定を行った。

・IITGNとのダブルディグリープログラムについて、両校のプログラム担当教員を中心に単位互換リストの作成等を行うとともに、学生募集を開始した。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

○留学支援センターの継続的な運用

留学支援センターにおいて、相手校及びインド進出日本企業との連絡調整やプログラム参加学生の受入・派遣支援及び指導助言等のサポートを行った。

○インド渡航に向けた事前研修の実施や安全講習会等の開催

インド派遣希望学生等を対象に英語でのディスカッション能力向上に向けた事前研修や、外部講師による安全講習会を開催した。また、相手校からの受入学生との研究交流会を全学的に開催し、相手校の大学院生と本学の日本人学生が交流する機会を提供し、留学準備の一助とした。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

○ウェブサイト等による情報公開

事業ウェブサイトプログラムの最新の情報や活動実績を日本語及び英語で掲載し、国内外への事業成果の普及に努めた。IITGNとのダブルディグリープログラムの開始に向けて、プログラム概要及び学生募集について本学ウェブサイトへの掲載、チラシの大学院進学説明会及びオープンキャンパスでの配布、プレスリリース及びWEB上のポータルサイトへの記事掲載を行った。

■ 特記すべき事項等

IITGNとのダブルディグリープログラムについて、本学からの1期生が平成30年度よりIITGNへの派遣を開始予定である。